

子育て住宅の生活実態・生活用品調査及び子どもの行動特性調査

ミサワホーム株式会社

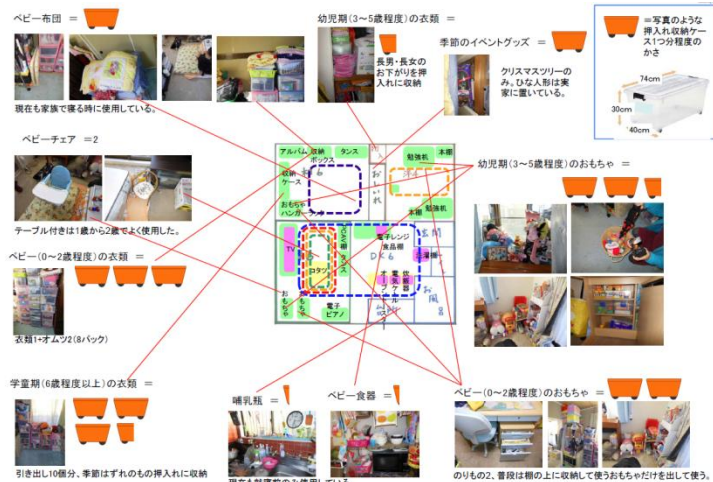
プロジェクトの目的

- 乳幼児がいる家庭の生活用品や家電 製品の種類・サイズ・量・場所を調査。
- 震災後の意識変化や子どもの行動特性、家庭内事故の種類や発生場所の調査。

実施方法

- ① 自宅訪問調査：
0歳～10歳の子と同居する保護者を対象に、「ヒヤリハット・収納」に関する調査を21件実施した。うち1件は、東日本大震災の被災地。
- ② WEBアンケート調査：
0歳～10歳の子と同居する保護者を対象（全国210名）に、「ヒヤリハット・収納」「避難時の不具合」「子どもの行動特性」に関するアンケートを実施した。

結果



訪問調査のデータ例(ひやりはつとだけでな、収納も調査)

- 子どもの主な生活場所はリビング。成長するにつれ、ダイニング・和室・子ども部屋へと生活範囲が広がっていく。
- 震災以降は、家庭内事故予防+防災の視点が住まいに求められている。特にキッチンへの対策が重要。
- 子どもの物は平均して押入れ収納ケース20個分有り、収納スペースが不足。家具や小物の不適切な配置が事故を誘引。

今後の展望・展開

- 家庭内事故予防+防災の視点で住まいの安全対策について分析を継続